

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 7 年 4 月調査結果 - -

(平成 1 7 年 4 月 2 8 日)

調査期間：平成 1 7 年 4 月 1 5 日～ 2 1 日

調査対象：全国の 4 0 3 商工会議所が 2 5 7 9 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 7 9 製造業 6 2 3 卸売業 2 3 2
小売業 7 3 7 サービス業 6 0 8

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 9 1 5
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成17年4月調査結果のポイント】

業況D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、景況停滞感が続く

4月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 33.4 ）よりマイナス幅が1.9ポイント拡大して 35.3 となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

業種別の業況D Iは、サービスを除く4業種でマイナス幅が拡大したため、全産業合計の業況D Iのマイナス幅も拡大した。引き続き業況は好調との声があるものの、公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰などによる景況の停滞感を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「市町村合併に伴う暫定予算に対しての公共工事受注に期待している」（一般工事）との声がある一方、「公共工事は連続で減少、民間企業の設備投資も低調である」（建築工事）、「3月までは横ばいで推移してきているが、4月以降設備投資の減退から相当の売上減が見込まれる」（電気工事）といった声が寄せられている。

【製造業】では、「前月に続き受注、生産ともに順調に伸びている」（自動車・附属品）といった声の一方、「原料価格の高値分を製品販売価格へ転嫁したところ、受注量が減少して売上高が伸びなくなっている」（水産食料品製造）との声や、「油の仕入単価が上昇しており、鋼材についても秋に再び仕入価格が上昇するのではとされている」（船舶製造・修理）と、引き続き仕入コスト上昇による影響を訴える声が寄せられている。

【卸売業】では、「春野菜の出荷がピークを迎え、目に見える物量の増加が市場全体を活気づけている。単価的には例年並なもの、取扱量の順調な増加により採算面でも好調である」（食料・飲料卸売）との声はあるものの、「石油関連商品は、仕入価格上昇のため採算悪化。個人消費財も売上低迷傾向が続いている」（各種商品卸売）、「荷動き、引き合いともに低調気味であり、仕入価格も引き続き上昇している。材料の品薄状態も改善されていない」（鉱物金属材料卸売）といった声が寄せられている。

【小売業】では、「入進学に伴う物品購入など季節的な需要が例年以上に動いている。また、花粉対策関連商品の需要も旺盛で、全体の底上げ、業況の回復に寄与」（その他小売）といった声の一方、「3月中旬頃から、客数・販売数量は対前年同月比増加しているものの客単価の低下傾向が顕著であり、売上高は減少傾向にある」（商店街）との声や、「食料品、住居関連品は昨年並であるが、衣料品関連が苦戦している」（その他の小売）、「気温の変動が大きく衣料品の売上が良くない」（百貨店）といった声が寄せられている。

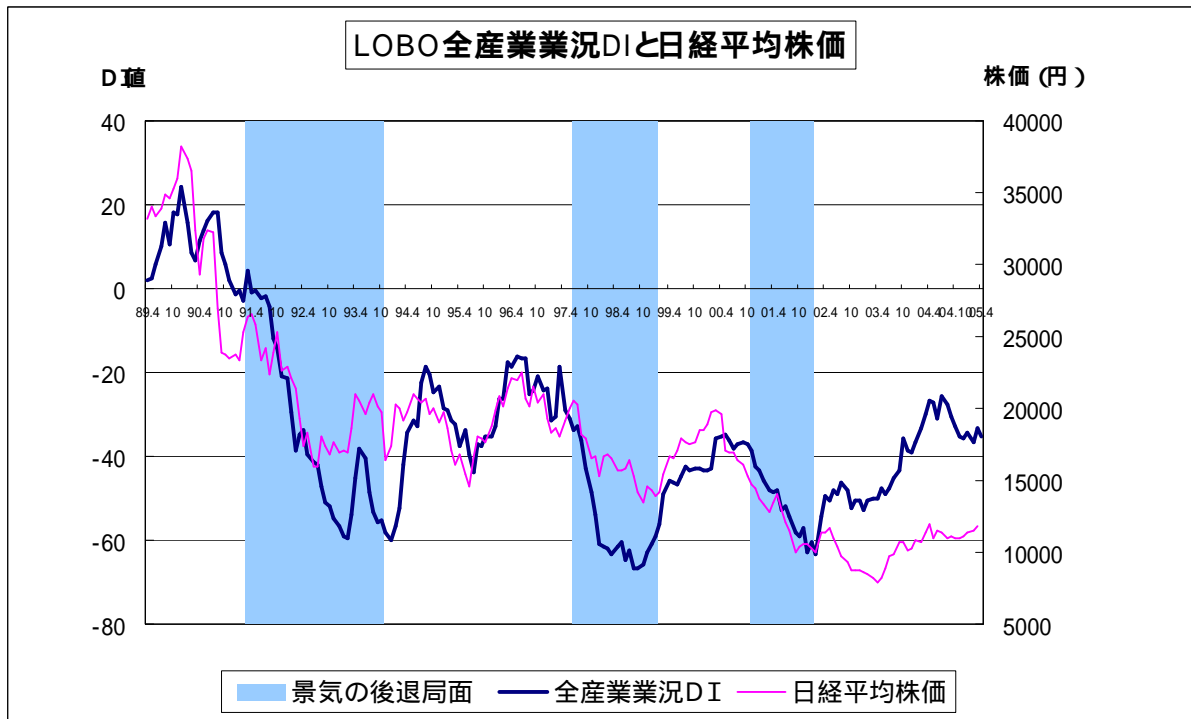
【サービス業】では、「売上高は徐々に回復傾向にあり、大型連休を前に観光客の予約も出足は悪くはない」（他の一般飲食店）との声の一方、「例年に比べ春休み中の客の出足が悪い」（食堂、レストラン）といった声のほか、「軽油価格の急激な値上がりにより、輸送コストが上昇している。運賃への転嫁が難しく、厳しい状況にある」（運輸）と、引き続き仕入コスト上昇による影響を訴える声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は建設、小売、サービスで縮小したが、製造、卸売で拡大したため、全産業合計の売上D I は0.1ポイント拡大して 30.5となり、2カ月ぶりに若干拡大した。

採算面では、D I 値のマイナス幅はサービスを除く4業種で拡大したため、全産業合計の採算D I は0.4ポイント拡大して 33.3となり、2カ月ぶりに拡大した。

向こう3カ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I (今月比ベース)が 29.6と、昨年同時期の先行き見通し(22.6)に比べて悪化している。

景気に関する声、当面する問題としては、引き続き業況は好調との声があるものの、公共事業の縮小や消費の低迷、原油・素材価格の高騰などによる景況の停滞感を訴える声が寄せられている。



【業況についての判断】

4月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（ 33.4 ）よりマイナス幅が1.9ポイント拡大して 35.3 となり、2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。

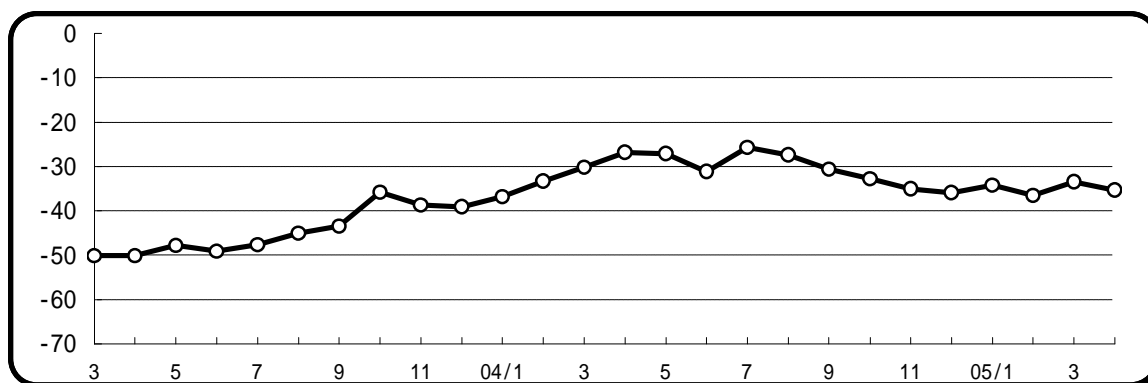
向こう3カ月（5月～7月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が 29.6 と、昨年同時期の先行き見通し（ 22.6 ）に比べて悪化している。

業況DI（前年同月比）の推移

	16年 11月	12月	17年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	35.0	35.9	34.2	36.5	33.4	35.3	29.6 (22.6)
建設	47.1	47.3	48.2	47.2	42.9	46.0	43.5 (46.5)
製造	15.6	20.2	21.8	23.4	24.0	24.6	24.0 (14.1)
卸売	26.5	35.6	34.7	43.8	36.1	39.6	23.3 (15.9)
小売	43.6	46.3	37.2	40.5	34.0	37.8	31.1 (22.1)
サービス	41.0	33.1	34.8	36.0	35.5	35.1	27.2 (19.5)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
()内は昨年3月の先行き見通しDI < 以下同じ >

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

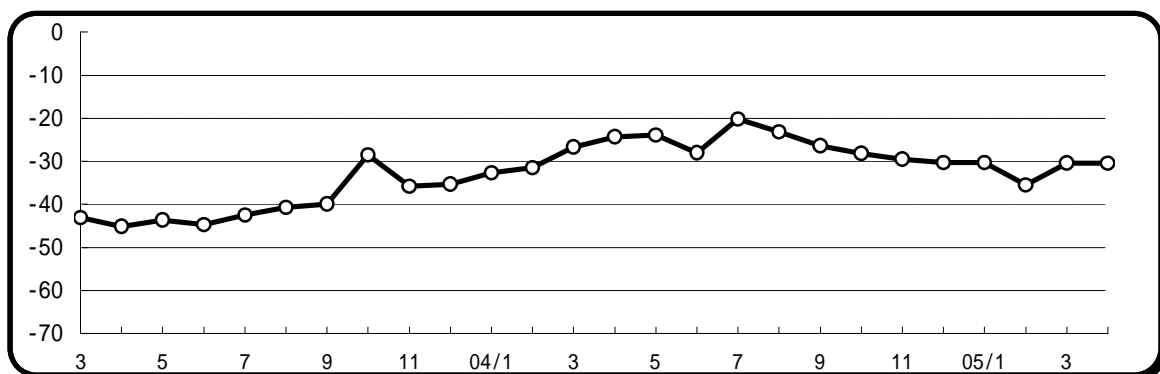
売上面では、D I 値のマイナス幅は建設、小売、サービスで縮小したが、製造、卸売で拡大したため、全産業合計の売上D I は0.1ポイント拡大して 30.5 となり、2カ月ぶりに若干拡大した。

向こう3カ月(5月～7月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が 24.3と、昨年同時期の先行き見通し(17.3)に比べて悪化している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	16年 11月	12月	1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	29.5	30.3	30.3	35.5	30.4	30.5	24.3 (17.3)
建設	39.6	44.5	44.4	48.5	40.0	39.8	39.9 (41.0)
製造	5.4	11.1	12.6	20.3	10.0	13.2	13.0 (7.7)
卸売	26.5	21.3	31.7	45.0	36.7	38.4	22.1 (8.9)
小売	39.9	44.8	39.1	41.0	39.5	37.5	26.5 (16.0)
サービス	37.3	27.7	29.2	32.9	32.0	31.7	24.8 (16.8)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

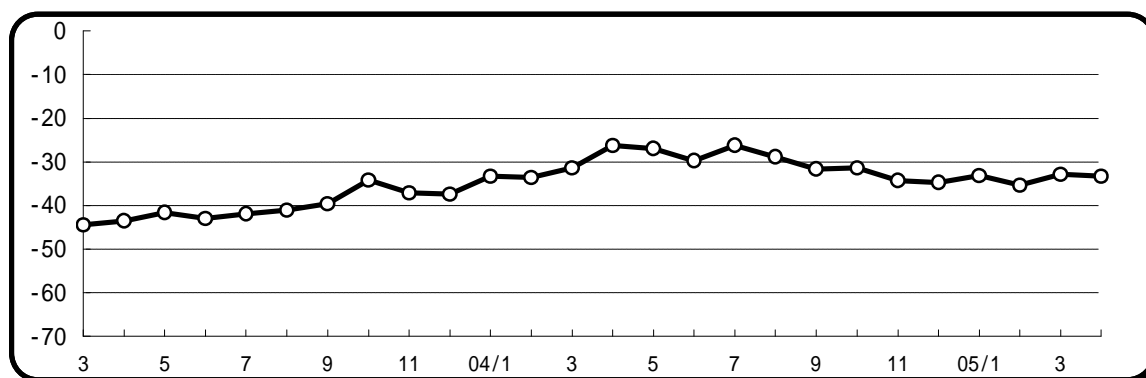
採算面では、D I 値のマイナス幅はサービスを除く 4 業種で拡大したため、全産業合計の採算 D I は 0.4 ポイント拡大して 33.3 となり、2 カ月ぶりに拡大した。

向こう 3 カ月(5 月～7 月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算 D I (今月比ベース)が 27.4 と、昨年同時期の先行き見通し(22.7)に比べて悪化している。

採算 D I (前年同月比)の推移

	16年 11月	12月	17年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	34.3	34.7	33.2	35.4	32.9	33.3	27.4 (22.7)
建設	47.1	47.4	49.1	52.0	49.5	50.0	42.7 (46.0)
製造	22.2	27.5	25.9	29.4	24.7	27.1	24.0 (19.2)
卸売	25.3	24.4	27.1	32.5	24.7	30.5	20.9 (13.4)
小売	36.5	42.3	34.7	32.4	31.8	32.4	24.8 (15.8)
サービス	39.6	29.0	31.4	35.5	35.0	31.7	27.0 (23.6)

《採算 D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	16年 11月	12月	17年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	24.6	24.0	24.2	24.5	25.0	23.6	19.4 (20.0)
建設	43.7	38.8	41.5	40.0	39.4	39.7	36.5 (37.3)
製造	16.5	20.7	20.9	18.5	19.7	20.0	15.9 (17.2)
卸売	23.6	18.5	17.8	23.5	21.3	19.9	11.1 (14.7)
小売	21.6	22.0	19.0	21.7	23.3	19.7	16.9 (15.3)
サービス	23.1	21.3	23.8	23.5	23.6	22.4	18.6 (19.4)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】建設、製造で悪化超感が強まったが、卸売、小売、サービスで弱まったため、全産業合計でも4ヶ月ぶりに弱まる。

【先行き見通しD I】小売を除く4業種で昨年同時期に比べて悪化超感が弱まったため、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	16年 11月	12月	17年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全産業	22.8	19.9	19.1	16.9	16.6	19.3	17.7 (11.2)
建設	28.8	25.4	24.0	21.0	25.3	26.4	25.8 (25.5)
製造	37.5	33.9	38.4	32.6	35.8	36.9	32.1 (21.4)
卸売	22.9	22.6	17.4	12.6	12.7	14.6	14.1 (10.3)
小売	9.3	6.7	3.6	5.3	1.0	5.6	6.6 (1.0)
サービス	19.3	15.6	13.9	13.1	10.8	14.2	12.0 (6.3)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全業種で上昇超感が強まったため、全産業合計でも5か月ぶりに強まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて上昇超感が強まったため、全産業合計でも強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	16年 11月	12月	17年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5～7月
全産業	5.4	6.9	6.6	6.7	6.6	6.8	6.1 (9.3)
建設	23.6	23.8	23.9	26.2	23.0	22.9	17.7 (29.0)
製造	3.2	6.0	5.0	7.3	7.7	8.3	7.4 (12.2)
卸売	7.8	9.4	6.6	8.1	8.2	9.8	9.9 (5.3)
小売	1.4	3.1	1.2	0.6	1.4	0.6	0.0 (2.3)
サービス	2.7	0.0	3.4	1.0	3.3	2.5	2.7 (2.7)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】建設、サービスで過剰超感が弱まったが、製造、卸売、小売で強まったため、全産業合計でも2カ月ぶりにやや強まる。

【先行き見通しD I】卸売、サービスを除く3業種で昨年同時期に比べて過剰超感が弱まったため、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成17年4月の景気キーワード】

悪化への懸念

各業種から、引き続き業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられており、「相変わらず受注環境は厳しい状態」(帯広・一般工事)、「公共工事は連続で減少、民間企業の設備投資も低調である」(境港・建築工事)、「年度末で顧客が発注を減らして在庫調整している影響で、売上が減少した。先行きも見通せない」(加茂・金属加工機械製造)、「景気の回復が鈍化傾向にあり、先行きが不透明である」(富士・百貨店)、「営業不振が日を追って深刻化している」(船橋・他の一般飲食店)といった声が寄せられている。また、「ガソリン等、油類の値上げが事業経営に影響を及ぼし始めている」(帯広・自動車整備)、「原材料である鋼材の値上がり傾向が続いているため、資金繰りは依然厳しい」(所沢・金属加工機械)と、引き続き仕入コスト上昇による厳しい状況を訴える声のほか、「愛知万博の影響を受け、売上が減少している」(七尾・旅館)とのコメントも寄せられている。

回復への動き

一方で、各業種から、業況は好調との声も寄せられている。「前月に続き、受注・生産ともに順調に伸びている」(豊橋・自動車、同附属品)、「天候が良かったため、売上は昨年よりややプラス。時期的にしばらくはやや上向きだろう」(川之江・食料、飲料卸売)、「卒業、入学、就職に伴う物品購入など、季節的な需要については購買意欲が旺盛である。必要な物には惜しまず消費する傾向は顕著である」(金沢・百貨店)、「今年の春は業績よく推移している、と話す組合員が多い」(町田・そば、うどん店)、「桜の開花が遅れた分、宿泊は好調であった」(京都・旅館)といった声が寄せられている。また、「公共事業の発注期に入り、受注機会の増加による業況の好転が期待される」(岩見沢・建築工事)との声や、「これから徐々によくなりそう」(市原・一般工事)、「連休明けくらいより、若干の好転の兆しに期待」(青梅・産業用電気機械)、「気温の上昇により、需要の活発化を期待」(藤枝・食料、飲料卸売)、「五月の連休明けより、徐々に宿泊客に動きが出てくると予想をしており、業況が回復するのではと期待している」(土別・旅館)と、業況の回復や先行きに期待する声が寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年	月	景気キーワード		
17年	2月	悪化への懸念	回復への動き	
	3月	悪化への懸念	回復への動き	
	4月	悪化への懸念	回復への動き	

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは3ヶ月ぶり、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、売上D Iは2か月連続で縮小した。「市町村合併に伴う暫定予算に対しての公共工事受注に期待している」(一般工事)との声がある一方、「年度替りで官公庁発注の減少により仕事量激減。また、民間受注も原価割れで厳しい経営を迫られている」(一般工事)「公共工事は連続で減少、民間企業の設備投資も低調である」(建築工事)「3月までは横ばいで推移してきているが、4月以降設備投資の減退から相当の売上減が見込まれる」(電気工事)といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iは5カ月連続、売上、採算D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「前月に続き受注、生産ともに順調に伸びている」(自動車・附属品)といった声はあるものの、「原料価格の高値分を製品販売価格へ転嫁したところ、受注量が減少して売上高が伸びなくなっている」(水産食料品製造)「重油をはじめ石油製品の価格が上昇しており、今後、採算悪化・先行き不安の原因になりうる」(加工紙製造)との声や、「油の仕入単価が上昇しており、鋼材についても秋に再び仕入価格が上昇するのではと言われている」(船舶製造・修理)「平成16年度に比べると素材単価の上昇が大きく、採算を悪化させると思われる」(産業用電気機械)と、引き続き仕入コスト上昇による影響を訴える声が寄せられている。
卸 売	業況、売上、採算D Iとも2カ月ぶりにマイナス幅が拡大した。「春野菜の出荷がピークを迎え、目に見える物量の増加が市場全体を活気づけている。単価的には例年並なもの、取扱量の順調な増加により採算面でも好調である」(食料・飲料卸売)「地上波デジタル対応プラズマテレビ、液晶テレビは好調」(電気機械器具卸売)との声はあるものの、「石油関連商品は、仕入価格上昇のため採算悪化。個人消費財も売上低迷傾向が続いている」(各種商品卸売)「荷動き、引き合いともに低調気味であり、仕入価格も引き続き上昇している。材料の品薄状態も改善されていない」(鉱物金属材料卸売)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは2カ月ぶり、採算D Iは4カ月ぶりにマイナス幅が拡大、売上D Iは2か月連続で縮小した。「入進学に伴う物品購入など季節的な需要が例年以上に動いている。また、花粉対策関連商品の需要も旺盛で、全体の底上げ、業況の回復に寄与」(その他小売)「ビール、発泡酒等業界全体で改善の兆しがあり、少し希望を持てる状態」(商店街)といった声の一方、「3月中旬頃から、客数・販売数量は対前年同月比増加しているものの客単価の低下傾向が顕著であり、売上高は減少傾向にある」(商店街)との声や、「食料品、住居関連品は昨年並であるが、衣料品関連が苦戦している」(その他の小売)「気温の変動が大きく衣料品の売上が良くない」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況、売上、採算D Iとも2ヶ月連続でマイナス幅が縮小した。「売上高は徐々に回復傾向にあり、大型連休を前に観光客の予約も出足は悪くはない」(他の一般飲食店)との声の一方、「例年に比べ春休み中の客の出足が悪い」(食堂、レストラン)「GWに期待感があるも、予約状況は低調」(旅館)といった声のほか、「軽油価格の急激な値上がりにより、輸送コストが上昇している。運賃への転嫁が難しく、厳しい状況にある」(運輸)と、引き続き仕入コスト上昇による影響を訴える声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I (前年同月比ベース)は、北陸信越、中国でマイナス幅が縮小したが、他の7ブロックで拡大したため、全ブロック合計でも2カ月ぶりに拡大した。

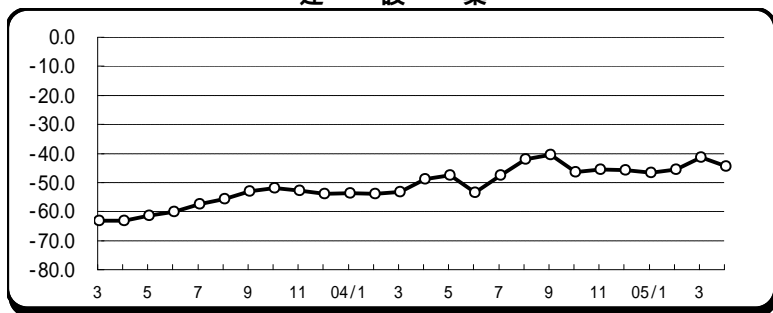
ブロック別の向こう3カ月(5月~7月)の業況の先行き見通しは、全ブロックで悪化している。

ブロック別・全産業業況D I (前年同月比)の推移

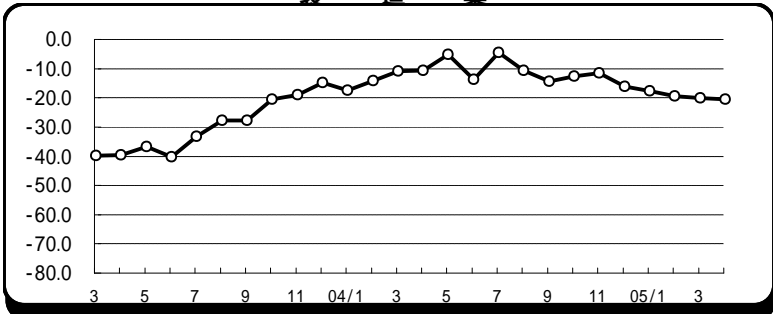
	16年 11月	12月	17年 1月	2月	3月	4月	先行き見通し 5~7月
全 国	35.0	35.9	34.2	36.5	33.4	35.3	29.6 (22.6)
北海道	33.3	39.7	37.1	30.8	27.9	35.7	25.0 (20.6)
東 北	42.3	50.3	44.0	40.8	38.3	42.9	32.7 (30.7)
北陸信越	37.3	34.3	26.1	35.9	39.5	28.2	25.4 (21.8)
関 東	31.6	30.0	30.7	32.4	29.4	36.0	23.6 (15.0)
東 海	23.7	27.3	29.0	25.1	25.9	29.7	28.6 (28.4)
近 畿	40.8	35.9	38.9	44.0	38.1	38.6	33.7 (31.5)
中 国	31.8	40.4	35.8	39.3	36.2	28.9	43.8 (23.3)
四 国	42.2	40.4	35.9	48.6	34.7	37.5	33.3 (16.5)
九 州	35.2	37.8	35.8	36.8	34.3	37.5	30.4 (20.6)

業況D I（前年同月比）の推移（全国）

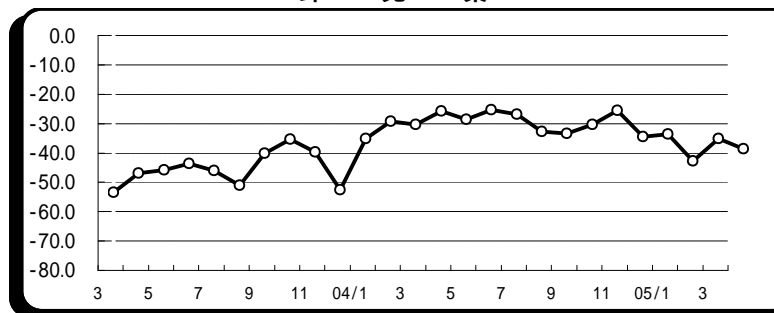
建設業



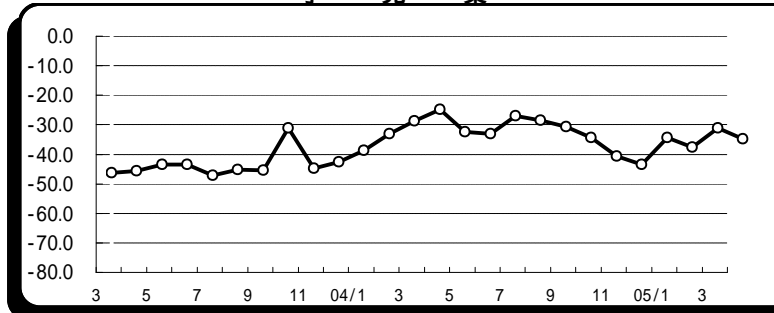
製造業



卸売業



小売業



サービス業

